



すでに今春闘は「準備会」を名められており、それは今春闘を分析し、進行する事態の本質を見ぬくキー・ワードである。事実、各組合が賃上げや政策制度要求の共同行動をつづめ、実績を積み上げていくことが準備会の質的な強化・発展につながる。(金杉造船重機労連委員長)として、今春闘を昨年末発足した「統一準備会」のいっぽうの「発展」のために最大限機能させることができるのである。

春闘は、まさにその準備段階から、統一準備会参加組合によってぶり回され続けてきたことは周知の事である。昨年十一月十日の国民春闘会議の一ヶ月遅れの発足、中立労連の参加見合せ発言、

春闘は二月二八日の「減税メーデー」を第一弾として「春闘本番」に突入している。今春闘では「一兆円減税要求」や「平和のためのヒロシマ行動」が設定され、「見するところ数年続いた春闘の連敗ムードとは若干違った趣きを呈しているかのようである。

総評を搔さぶる

同盟・JCの攻勢

屈服ふかめる総評

賃上げ―内需拡大論の反動性

減税闘争にこめた

四団体共闘のもぐろみ

すでに今春闘は「準備会」を名められており、それは今春闘を分析し、進行する事態の本質を見ぬくキー・ワードである。事実、各組合が賃上げや政策制度要求の共同行動をつづめ、実績を積み上げていくことが準備会の質的な強化・発展につながる。(金杉造船重機労連委員長)として、今春闘を昨年末発足した「統一準備会」のいっぽうの「発展」のために最大限機能させることができるのである。

春闘は、まさにその準備段階から、統一準備会参加組合によってぶり回され続けてきたことは周知の事である。昨年十一月十日の国民春闘会議の一ヶ月遅れの発足、中立労連の参加見合せ発言、

春闘は二月二八日の「減税メーデー」を第一弾として「春闘本番」に突入している。今春闘では「一兆円減税要求」や「平和のためのヒロシマ行動」が設定され、「見するところ数年続いた春闘の連敗ムードとは若干違った趣きを呈しているかのようである。

「準備会春闘」=

破綻させる新しい力を

82春闘は二月二八日の「減税メーデー」を第一弾として「春闘本番」に突入している。今春闘では「一兆円減税要求」や「平和のためのヒロシマ行動」が設定され、「見するところ数年続いた春闘の連敗ムードとは若干違った趣きを呈しているかのようである。

82春闘は、他の大都市が国並(ベ・ア)の一時金(ネ返りなし)調整手当(ハ・ア)の9%引き上げせず)におさえこまれる情況の中にありながら、人事委員会勧告の完全実施をかちとるという一定程度の成果を上げた。しかし、この完全実施

は昨年度の八千名をこえ定数削減につづく二千三百四名の定数削減と労働時間の短縮(四週五休

もつとも今春闘を「準備会春闘」と特徴づけても「準備会」それ自体が機能する

てなのである。ここではもつとも今春闘を「準備会春闘」と特徴づけても「準備会」それ自体が機能する

としている事態のなかか

最近の景気不振は個人消費の落ち込みに原因があり、大幅賃上げによって個人消

費を拡大し内需を喚起し、景気を浮揚させるという。

賃上げによる景気回復論

をリードし、その「成果を

もつて今年中にも「準備会

の「統一協議会」への再編に

こぎつけようといふもので

もつて今年中にも「準備会

の「準備会春闘」の中心部隊と

こぎつけようといふもので

もつて今年中にも「準備会

の「準備会春闘」はいかなる

主導の安定成長軌道へ誘導する条件を形成することが要求されている」とつまり

して「春闘本番」はいかなる

主導の安定成長軌道へ誘導する条件を形成することが要求されている」とつまり

強まる対日要
求と経済摩擦
米・日帝国主義の八十年代関係を決定づけるといわれる、米下院外交委員会アジア・太平洋問題小委員会の対日関係公聴会が、三月一日から開かれている。米帝国主義の腐朽化の度合いがいつそう深まり、失業者が戦後最高水準に達しているなかでの日米通商問題、また昨年来の対日軍拡要求の米議会決議につく防衛問題が、公聴会の中心的議題となっている。

現在まで報道された内容を分折するかぎり、昨年米議会で金融独占資本家たちの代理人による「対日軍拡要求」決議案の「安保ただのり論」が、その基本認識となっている。

九日の米下院本会議での

題、また昨年来の対日軍拡要求の米議会決議につく防衛問題が、公聴会の中心的議題となっている。

現在まで報道された内容を分折するかぎり、昨年米議会で金融独占資本家たちの代理人による「対日軍拡要求」決議案の「安保ただのり論」が、その基本認識となっている。

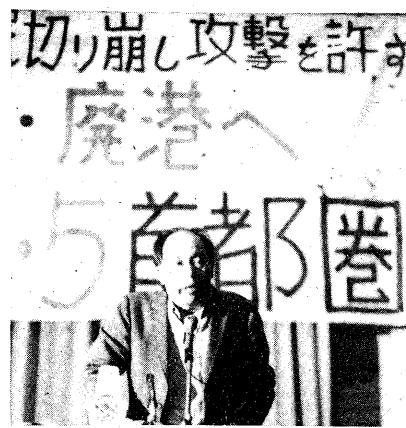
九日の米下院本会議での

特別自由討論では、たとえば「米納税者の負担した防衛費によって、日本は国内

経済を発展させ、鉄鋼・自動車を世界に売っている。

アメリカは失業者が増大し

アーティカは失業者が増大し



インタビュー

全日農青対部長

加瀬勉氏 に聞く

聞き手 本紙編集部員

650名を結集し反撃の第一歩を
した3・5集会(東京)で熱弁

こうして、運輸大臣を中心として内閣官房に三里塚問題対策本部をおく、それと通称「話し合い本部」というわけです。それで、財界がそうゆう原則をたてて、反対同盟に三・二六から五・二〇の間に攻撃をしかけてくるわけです。財界では桜田(日経連)、今里(日本精工)、永野(日商)、自民党の治安対策部の増田、奏野等こうゆう人達がしかけてくる。福田――運輸大臣――葉日報ラインでもかけられてくる。

それから総評が春闘の中であつて、政労会談を続いているなかで、事態収案として「成田空港安全委員会」設置という具体的な提案をしてくるわけです。その案とは成田市、芝山町、千葉市と反対同盟、総評、政府がテーブルについて話し合いをもちたいと、また、千葉県企画部長の吉田、彼は以前、千葉県の農地農林部農業改善室にいたものですから、かつての農村青年

な攻撃が仕くまれてくるわけです。こうして、七九年の第一次攻撃・「話し合い編集部」これら「話し合い」攻撃を現在の日本闘争――とくに三里塚闘争との関係でどうとらえていますか。

加瀬 先にのべた治安問題・政治問題である点に凝縮するわけです。それで敵は「成田治安立法」衆参での過激派排除決議を出していく。

このように三里塚闘争、三・二六は国民世論を「分裂するような大きな衝撃を与えた。かなり大きな政治的領域――われわれが考えている以上の――をかちとつていてる。小規模であれ大規模で

この口セスをいかにつ
に対する闘いとか、部分く
に対し戦術をたててきま
した。しかし廃港にする、
廃港闘争をやろうではない
かと政治課題らしきものが
はつきりしていない。

政治課題をめぐってかな
り激論があつた。権力を奪
取しなければ廃港できない
のか。あるいは自民党政
府を倒せば建設を中止せざる
をえないのではないか。も
つといえど、権力問題をぬ
きにしても住民運動サイド
からいえば、日本の政治・
経済・社会制度は人間の生
存を拒否するような状態に
なつてゐるから、人民の反
撃で廃港していくんだとか。
……（略）……

のうえに三・二六闘争が闘
われたわけです。したがつ
て、廃港という政治課題を
明確にし、そのプロセスを
ふんでいこうとするならば
廃港連合戦線—統一戦線と
いう本来ならば安保共闘の
ようになればならない
い。その大きな課題を発展
させる作業が、やつぱり組
織路線のほうでついていか
ない。

もう一つは戦術的問題で
す。これまでのトリデ・ヤ
グラ・穴と異つて、受身か
ら今度は敵がつくつたもの
に攻撃をしかける、そういう
う能動性をもつていく。
……（略）……

問題は、すぐれて本來的
すなわち、廃港の政治課
題をどう認識し、それい
意味で党が経験を蓄積して
法則化して、場合によつて

長 体 件 を て そ う い ま す。思 い ま す。そ れ に ど う い ま す。が な く あ ま せ ん。そ の 意 味 で、..
む の か、情 热 と 献 身 性 な
派 は そ の 態 度 と 議 論 を つ
し、個 別 の 領 域 で や つ
る 人 も そ の を や り、そ れ
大 合 流 で き る よ ウ に し
か な い と、気 が つ い た と
に は み ん な 分 析 さ れ て い
包 囲 さ れ て い る 状 況 に な
り、そ れ に つ い て そ う い
ま す。そ れ に つ い て そ う い
ま す。

どうりで、党界分ううで、がくききくもつて。そこはどうなんだつめなれば。……（略）……
ゆう農民に、戦後自作農でブルジョア民主主義の中育つたわれわれが支援するとか連帶するとかいうが、時代だと思います、確信をもつて。
編集部 どうありがとうございました。（インタビューは数時間にわたって行われましたが、紙面の都合上、一部割愛しました。文責は編集部）

総集會 加瀬さんは今
回の政府・公団の「話し
合い」攻撃の背景を四点
ぐらいにまとめられていますが、まずその点から
話をしていただけますか
加瀬 権力の方は三・
二六(管制塔占拠のとき、
「一つの小さな内乱である」という国会答弁を行つてお
り、その観点から反対同盟
に対処するといつてはいる。

そして三里塚を絶命
安保にしない、三井三池、
六十年安保の歴史的教訓を
反省するという。

が建上まに今、お会の御

十七年間の闘いと三・二六は
政府を窮地においつめた

【第1回】攻撃の背景から

編集部

あれもう一回あの闘いが起
きれば、福田内閣は倒れる
というのが彼らの認識だつ
た。

たるプロセスをわれわれは、はそれを発展させるべきだ
どう考えだしていくのかと
いうことが議論になる。
だから、私は大衆団体、
理屈でいけばそうです。そ
こに党の任務がある。しか
し、個別闘争がつきだした

は、反対同盟内に大きな反権力意識を形成してきたり、またその基礎には農業一經營基盤を守る（も）織の力、運動組織の力へ転化し、「話し合い」問題となり結

の力としてそ
以上食糧輸入し、逆にそ
また三里塚のものが工業製品輸出して減反政
に象徴される策をしている。多国籍企業
があつて大農場を外国につ
んでふみきる

加瀬

敵の80年代戦略と対決する われわれの戦略・戦術を

編集部

• DP •